

阿戸地区の『新たなまちづくりプラン』の作成(ワークショップ)の流れ

平成26年度 ワークショップ

- 第1回 ワークショップ 平成26年7月26日(土)
 テーマ『地域を再発見しよう』～魅力・資源、困っていること……～
- 第2回 ワークショップ 平成26年10月4日(土)
 テーマ『まちづくりのアイデアを出し合おう』～魅力・資源を生かす・生み出す取組、問題点の解決策……～
- 第3回 ワークショップ 平成26年12月7日(日)
 テーマ『まちづくりのアイデアを掘り下げよう』～将来像、地域でできること、行政で支援できること～
- 第4回 ワークショップ 平成27年1月31日(土)
 テーマ『まちづくりの全体計画(素案)をつくろう』～まちづくりの『全体計画(素案)』としてまとめよう～

↓
成果発表会(平成26年度 ワークショップの成果報告など) 平成27年3月7日(土)

今年度(平成27年度) ワークショップ

～プロジェクトを実現するための具体的な手立てを検討しました～

- 第5回 ワークショップ 平成27年5月23日(土)
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その1)』『遊び場プロジェクト』
- ↓
- 第6回 ワークショップ 平成27年8月2日(日)
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その2)』『阿戸周遊・情報発信プロジェクト』
- ↓
- 第7回 ワークショップ 平成27年9月5日(土)
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その3)』『自然活用プロジェクト』
- ↓
- 第8回 ワークショップ 平成27年12月5日(土)
 テーマ『保育園跡地活用プロジェクト(その4)』『遊休農地活用プロジェクト』

↓
 阿戸地区の「新たなまちづくりプラン(案)」の取りまとめ

成果発表会

平成28年2月6日(土) 14:00～ 阿戸福祉センター

↓
 阿戸地区の「新たなまちづくりプラン」の作成

体制づくり・具体的な行動

問い合わせ・連絡先

安芸区役所 市民部 地域起こし推進課(担当: 松原、佐田)
 電話: (082) 821-4904 FAX: (082) 822-8069 E-mail: ak-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

WSのまとめ等…「阿戸地区まちづくりだより」

阿戸地区まちづくりだより

～阿戸地区新たなまちづくりプランの作成に向けたワークショップについて～ vol. 8

平成27年12月 発行: 安芸区地域起こし推進課

第8回ワークショップ(WS)*を12月5日(土)に開催し、阿戸地区のまちづくりの具体化に向けて、『阿戸の食とブランドづくり』と『阿戸保育園跡地の活用(これまでに引き続き)』、『遊休農地活用』についてA・Bの2チームで検討しましたので、そのあらましを紹介します。

また、ワークショップに先立ち、農家レストラン『平田屋』で実際に料理をいただき、感想や気づいた意見、アイデアなどを話し合いました。
 A・Bチームでの具体的協議内容は、2、3頁をご覧ください。

※ワークショップ(WS)とは?

参加者が自由に意見を出し合い、互いの考えを尊重しながら、意見・アイデアをまとめ、計画や提案などをつくること、またはその集まりのことをいいます。

第8回ワークショップのプログラム等(要点)

日 時: 平成27年12月5日(土) 13:30～16:00 会 場: 農家レストラン「平田屋」
 参加者: 住民の皆さん14人、安芸区役所7人、進行役2人

「阿戸の食とブランドづくりプロジェクト」の検討(全体で議論)

- 農家レストランでの会食の感想・気づき
- 魅力アップのための提案・アイデア、阿戸地区住民としてやってみたいこと

具体的な手立ての検討(チームごと)

- 前回の振り返り
- 今日のプログラム

Aチーム

『保育園跡地活用プロジェクト』の検討(その4)

- コンセプトや目指す効果などの確認
- 取組のメニュー・内容の確認・追加等
- 取組の手順・スケジュールの検討
- 担い手・体制の検討
- 実現手法の検討

Bチーム

『遊休農地活用プロジェクト』の検討

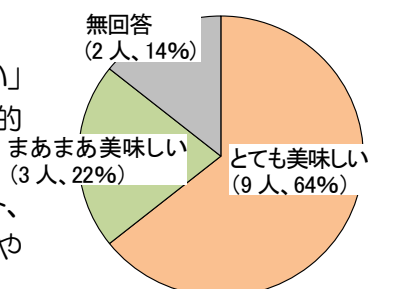
- 主な取組(これまでの提案・アイデア)への追加
- 内容の掘り下げ
- 担い手・実現手法の検討など

全体会

- チームごとの発表、意見交換
- 全体の取りまとめ、プロジェクトチーム等の立ち上げについて
- 各自のWS及びプロジェクト等への参加の思い
- 今後の予定、その他

「阿戸の食とブランドづくりプロジェクト」について ～農家レストラン「平田屋」の感想～

- 平田屋で昼食(右写真)をいただきました。
 「美味しい」という感想が大半でした。
- 平田屋でのイベントについては、参加経験がない人が大半で、その理由としては、「イベントがあることを知らなかった」ということです。
- 料理や受け入れなどに関する意見としては、「お品書き・料理の説明があったらよい」「フスマなど建具の清掃」「車の進入路の改善、駐車場の確保」「週末などの定期的な開店」などがあげられています。
- 地域住民としての関わり(できること)については、「広報・呼びかけ」「イベント、食事付き会合での利用」「田舎体験(食育、料理教室….)」「調理の応援」「駐車場や周辺の整備、掃除」「イベント時の案内」などが出されています。



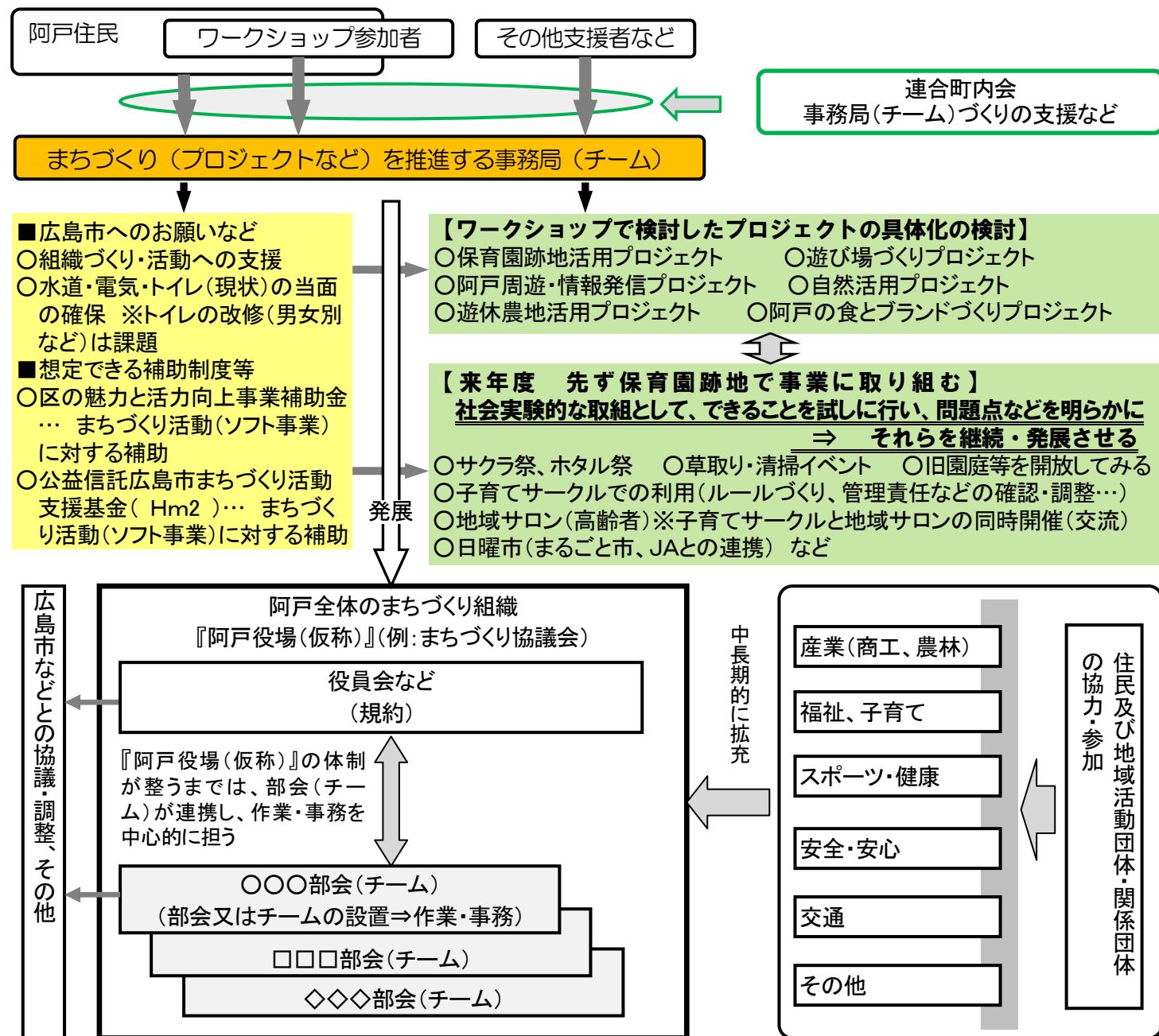
【第8回ワークショップの協議の内容】 ※ 以下に書かれている内容は、ワークショップの参加者から提案されたアイデアです。

Aチーム『保育園跡地プロジェクト』(その1)について

【実際に動く管理運営づくり⇒まず、取り組むことなど】

- 連合町内会にリードをとってもらい、阿戸町住民、ワークショップ参加者、その他支援者などによるまちづくり（プロジェクトなど）を推進する事務局（チーム）を立ち上げる
- 具体的な取組を進めながら、将来的には阿戸全体のまちづくり組織『阿戸役場（仮称）』に発展させる
- まず、できることを行ってみる、社会実験的な取組として、試しに行ってみて問題点などを明らかにする
⇒ 継続・発展、ワークショップで検討した取組メニューの具体化、更なる発展（新たな取組など）

■管理運営体制づくりと取組などの案



【参加意向&できること・アイデアシート】～参加者に自らどんなことができるかなどを、記載してもらいました～

- ・まちづくりプロジェクト（仮）開設：事務局：準備室発起人会 ・実行委員会等への出席
- ・施設の掃除、各種イベントへの参加 ・イベントの周知、参加すること
- ・地域の社会資源の1つとして、誰もが気軽に立ち寄れるカフェや、食事を持ち込んで食べることの出来る場所
- ・公民館等ではできないことをする（園庭を使う→公園のような使い方、介護予防教室の日と重ねて交流）
- ・大きいところを狙いすぎて、動けないようなら園庭の開放のみ実施（公園）など

Bチーム『遊休農地活用プロジェクト』について

【主な取組内容】

～前回までのアイデア～

- 花づくり ○市民農園・市民菜園 ○子どもたちが収穫できる物（植える、育てる）
- 遊び場としての活用（どろんこ広場） ○農業・農地としての活用
- 農業したい人を活用、農業をしたい人による労力の提供 ○遊休農地活用（対策）チームづくり
- 追加のアイデアの提案として、『あーと村との連携』や『料理店などとの連携』が出ました

【内容の掘り下げ】

人づくり・組織づくり

- 地域全体で取り組む形にするための組織づくり（小学校などとの取組と一体的に活動）
- 地域起こしへの外部の人・若者を巻き込んだ人づくり
- 遊休農地の貸し手と借り手を繋ぐ窓口の設置（双方の把握）

＜遊休農地の現状＞

- 遊休農地のままだと、草や虫で所有者に苦情が来る場合もある
- 地域内で貸したい人、借りたい人はいても、近所同士にとどまる

生活環境改善・広場としての活用

- 景観作物を植える手伝い（所有者と地域との連携）→いずれは外部から人を呼び込む
- 遊び場、とんどの活用などのために、定期的な草刈り活動

里山あーと村との連携

- あーと村で農業技術を学んだ人に、遊休農地を貸し実践して貰う
- 遊休農地の貸し借りの手助け

農業体験・体験学習

- 体験イベントとして参加しやすい蕎麦打ちやこんにやくづくりなどの「料理教室」と併せてそば・こんにやく芋づくりなどの農業体験を実施
- 小学校での農業体験利用（田植え、稲刈り、芋掘りなど）

料理店などとの連携

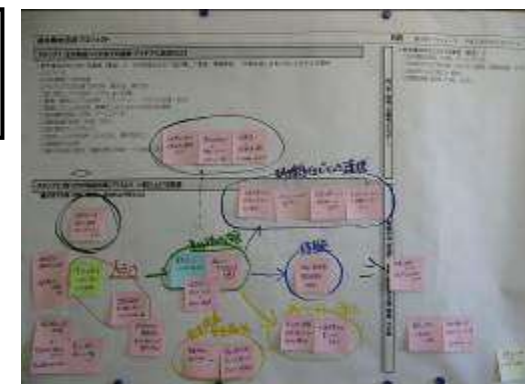
- 店で必要とされる作物の栽培（店主に栽培の手伝いをお願いし、安く提供）
- 連携する料理店などから他店を紹介してもらうなど口コミで繋がりをつくり、農産物栽培の拡大を目指す。

市民農園

- 市民農園利用方式で、多くの人に農地を活用して貰う
- 市民農園化への市の手続きサポート

【担い手、その他】

- 各種団体と権利者の協力
- あーと村参加者への呼びかけ
- 農ガールなどの外部の農業志向者
- 将来的には、田んぼや農地として活用された風景に
- 本格的な遊休農地解消は、販売・加工などの具体化と合わせて



遊休農地の検討

【参加意向&できること・アイデアシート】～参加者に自らどんなことができるかなどを、記載してもらいました～

- ・打合せ、活用案の検討に参加する
- ・遊び場、イベントへの一時的な利用による景観の維持
- ・農地の活用（再利用）
- ・遊休農地にしている人たちへの呼びかけ
- ・取組の情報発信
- ・教育活動の中での体験活動の場として関わりを持つ など